



まだまだできます ごみの削減！

け長く使うことが必要です。さらにごみ処理には、毎年10～12億円の多額の経費が必要で、皆さんの貴重な税金が使われており、経費の面からも削減が必要です。

☆市の取り組み

市民1人一日当たりのごみ排出量を531.6gと目標に掲げ、市民の皆さんにはごみ減量にご協力をいただいています。平成21年度のごみ排出量を見ると、市民1人一日当り626.8gで目標までにはあと95.2gとさらなる減量が必要です。(下図1参照)

☆ごみを減らす目的

なぜ、ごみを減らす必要があるのでしょうか。それは、生活が豊かになればなるほどごみの量は増え、ごみを燃やす行為が地球温暖化の要因となるCO₂を発生することになるからです。

また、牛久市は最終処分場を持つていないことから、焼却灰の処理は、笠間市や北茨城市、山形県米沢市にある最終処分場に頼らざるを得ません。そのため、ごみを減らし、最終処分場をできるだ

市では、平成20年度から木くずの回収を燃えるごみから資源物に変更しました。その結果、市民の皆さんのご協力により、平成20年度は204トン、平成21年度は304トンの木くずが資源物として活用されました。そのほかにもごみの削減に取り組んでいたこと、燃えるごみは472トン削減できました。(下図2参照)

しかし、それだけでは目標に達成することができず、今後は市民の皆さんと共に生ごみの削減に取り組んでいく予定です。

☆ごみを減らすために

意識しないとごみはなかなか減らないものです。それでは何を意識したらよいのでしょうか？
①燃えるごみの中に再生可能な紙類は入っていませんか？くずかごをのぞくと再生可能な紙は、意外に多く入っています。例え

図1 家庭ごみ市民1人当たりの排出量

年度	家庭ごみ(g/人日)	家庭資源物(g/人日)	家庭排出計(g/人日)
21年度	626.8	158.8	785.6
20年度	652.9	156.0	808.9
比較	△26.1	2.8	△23.3

図2 家庭ごみ全体排出量

(単位：トン)

年度	燃えるごみ	燃えないごみ	粗大ごみ	資源物	合計
21年度	16,747	913	600	4,624	22,884
20年度	17,219	823	749	4,491	23,282
比較	△472	90	△149	133	△398

ば、取り出し口にビニールが付いたままのティッシュの箱、贈答用の包装紙やメモ用紙、これも資源になる「その他の紙」です。特にメモ用紙のような小さな紙は、くずかごのわきに少し

大きめの封筒を置き、その封筒に小さな紙を入れれば、資源物の日に雑誌と一緒に縛ることができます。

②生ごみはしっかりと水切りをしていますか？生ごみのほとんどが水分なので、水切りは欠かせません。その前に、食材は使い切っていますか？いつもは捨てていた物でも、工夫次第では使い切れる物が意外に多いものです。ニンジンや大根の皮はきんぴらに、ビタミンたっぷりの大根葉はごまやかとお節と一緒にふりかけに、食材はしっかりと使い切りましょう。でも、作り過ぎは禁物です。食べ切れる量を調理すること、食べ残しをしないようにすることが、ごみを出さないポイントです。

※あなたが行っているごみダイエット、エコクッキングを教えてください。ごみニュースやホームページで紹介します。市廃棄物対策課へ郵便(〒300-1292牛久市中央3-15-1牛久市役所廃棄物対策課あて)かEメール(haiki@city.ushiku.ibaraki.jp)でお寄せください！お待ちしております！

問い合わせ 市廃棄物対策課 ☎内線1571